

佐賀県医療センター好生館看護学院令和2年度自己評価

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
1	学校運営	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、教職員に理解され新看護学院の年度目標に反映しているか。	新看護学院として、教育理念、教育目的に沿って、組織目標を設定し、学校運営に当たっている。 教職員もカリキュラムの改定、国家試験や県内就職率等の向上という年度目標の実現に努めている。	○		
2		学院の運営に関する委員会の目的が明確であり、十分に検討されているか。また、決定事項は周知徹底できているか。	学院運営の基本的項目については毎月2回開催する運営会議で全て議論し、決定している。運営会議の結果は職員に周知している。 また法人(病院)全体の重要事項を議論する好生館の統括責任者会議の結果についても、必要なものは職員に周知している	○		
3		より良い学生を確保するために、入学生の募集活動の充実を図り、志願者数の増につなげているか。	志願者を確保するために、次のような取り組みを行い、助産学科で5倍強、看護学科で3倍強の受験倍率を確保した。 ・学院の紹介パンフレットについては、従来はデータ中心の内容であったものを、写真や似顔絵を多用し、主たる受験生である高校生が手に取りたくなるような内容に大きく改定した。 ・ホームページについても高校生が今まで以上に関心を持つような内容に一新し、スマホで見ることを前提にした構成に改めるとともに、随時更新を行い、情報発信に努めた。 ・県内の普通科高校の進路指導室を訪問し、学院のPRを行うとともに、学生の進学希望状況の情報収集を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で大規模集会ができなくなったため、オープンキャンパスに代わり少人数を対象にした学校説明会を1日3回4日間開催し、95人の参加があった。 ・サガラボや専門学校ナビを活用した広報にも努めた。	○		
4		卒業生の県内就職率を高めるために、学生への情報提供等が充実するよう工夫をしているか。	(助産学科) 入学時よりクラス全体に県内就職情報を提供するとともに、学生一人一人に面接を行い、県内就職を推奨している。県内の病院及び診療所の募集要項が送付された場合は速やかに学生へ周知しているものの、令和2年度の県	○		

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
			<p>内就職率は50%と昨年度（58%）より若干下がった。 （看護学科）</p> <p>佐賀県内の就職情報を積極的に紹介し、進路面接の際には県内就職を推奨した。本年度の県内就職率は87%と昨年度（82%）より上昇した。</p>			
5		<p>新看護学院についてパンフレットの作成・ホームページの充実及びタイムリーな更新を行い、広報活動を活発に行っているか。</p>	<p>学院の紹介パンフレットについては、従来はデータ中心の内容であったものを、写真や似顔絵を多用し、主たる受験生である高校生が手に取りたくなるような内容に大きく改定した。</p> <p>ホームページについても高校生が今まで以上に興味を持つような内容に一新し、スマホで見ることを前提にした構成に改めるとともに、随時更新を行い、情報発信に努めた。</p>	○		
6		<p>災害など非常時に学校活動が継続できる体制が整っているか。</p>	<p>非常時に学校活動を継続させるために、次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時に LINE を使って学生に連絡できる体制を整えた。 ・新型コロナウイルス感染症の蔓延による休校、学生が濃厚接触者になった場合など、学生が学院に登校できないときに、Zoomを使った遠隔授業を行う体制を整え、実際に一部実施した。 ・災害時に帰宅できない学生を学生寮に一時宿泊させた。 	○		
7	学校施設	<p>教育目標達成に必要な施設設備及び教材を計画的に整備しているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。</p>	<p>学校全体や各学科に必要な教材については、優先順位をつけ、計画的に整備することとしており、令和2年度は下記の整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用パソコン40台を更新した。 ・授業中インターネットを利用して調査ができるように、校舎棟にWi-Fiを整備した。これにより将来的な電子教科書の導入にも対応できることとなった。 ・分娩介助モデル3台を購入した。 <p>通常の授業は16時10分に終了するが、図書室を19時まで開室することにより学生の自主的な学習の場を提供している。</p>	○		
8		<p>図書室の整備や福利厚生施設の整備等、学生のための環境整備は行われているか</p>	<p>学生のための環境整備として次のような取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎棟及び学生寮棟にWi-Fiを整備した。 ・図書室の本を新たに350冊購入するとともに、司書資格を有する者を臨時に雇用し、図書室の整理を行った。 	○		

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
			<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮のトイレを温水洗浄便座に改修した。 ・グラウンドを学生駐車場として開放し、自動車で通学する学生が民間駐車場を借りなくても済むように改めた。 ・男子学生専用のロッカー室を設けた。 			
9	教育活動	卒業時において持つべき看護師・助産師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	<p>(助産学科)</p> <p>教育目標をシラバス、実習要綱、学生便覧に明示するとともに、全国助産師教育協議会の「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と達成度」に基づいて3月に学生の自己評価を行っている。結果は、妊娠・分娩・産褥・新生児の診断とケアは全国平均を上回っているが、対象理解不足していることがわかり、取組みを強化していく必要がある。</p> <p>(看護学科)</p> <p>入学時及び各学年の初めにシラバスを用いて教育目標の説明を行い、浸透を図っている。卒業時は厚生労働省の「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」に沿い、技術到達度を把握している。実習施設で経験できない看護技術は学内での演習に力を入れている。この結果は実習施設と共有し、次年度の指導に生かした。</p>	○		
10		学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	<p>(助産学科)</p> <p>令和2年度は、時代の要請に応えるべく、周産期のハイリスク支援、ウイメンズヘルス、プレコンセプションケアを盛り込み、多様な対象への支援ができるようになる内容にカリキュラムを見直した。</p> <p>(看護学科)</p> <p>教員は教育理念・目的を意識し、教育目標に沿い、講義・実習指導を行っている。令和2年度は、新たに社会人基礎力の養成のために「キャリア論」を新設した。</p>	○		
11		授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。	<p>(助産学科)</p> <p>入学時にシラバスに沿って教育計画について説明し、学生が授業内容を理解できるようにしている。</p> <p>(看護学科)</p> <p>シラバスに科目設定の意義、目的を明記し、教育課程から講義内容までの流れがわかるようにした。</p>	○		

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
12		効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	<p>(助産学科)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年4月21日から5月13日まで学院への登校を停止したが、その間に21回のリモート授業を行い、予定していた授業はすべて実施できたものの、授業の順番が予定通りできなかった。</p> <p>(看護学科)</p> <p>概論から各論、疾患から看護など学生が理解しやすい順序を考え、外部講師との時間調整を図りながら時間割を調整している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年4月21日から5月13日まで学院への登校を停止したが、各学年ともに在宅でのレポートが課題や資料提供などを行い、学習に遅れが生じないようにした。</p>		○	
13		授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	<p>(助産学科)</p> <p>学内は臨床での助産実践を想定し、学生自ら考え実践するアクティブラーニングを導入している。</p> <p>場面ごとに学生のレベルに合わせた指導をしている。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため三密になるシミュレーション学習ができなかった。今後はリモート授業で活用できる視聴覚教材の作成などの工夫が必要である。</p> <p>(看護学科)</p> <p>人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進等の専門基礎分野と各看護分野の繋がりが学生に理解できやすいように講義を構成した。</p> <p>また、発問し、学生の理解度を確認しながら講義・実習を進めた。特に実習ではマンツーマンで指導を行うと共に実習指導者と十分話し合い、個々の学生のレベルに合う指導となるよう工夫した。</p>		○	
14		単位認定の方法(評価基準や方法等)を、各科目担当者が理解しており、評価については妥当であるか。	<p>外部講師にも評価基準・方法を説明し理解を得ている。</p> <p>学院教員と共に妥当な評価を実施している。</p>	○		

分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
			出来ている	一部出来ていない	出来ていない
15	<p>実習目標が達成できるよう実習施設との連携を行い、学生を支援する体制は整っているか。実習計画は施設に周知されているか</p>	<p>(助産学科)</p> <p>実習要綱を学生及び実習指導者に配布し、実習目標を共有している。実習開始前に各実習施設に出向き、打合せを行っている。</p> <p>また、3月に8医療機関と助産学実習評価会議を行い、実習全体の評価を指導者と共有し、次年度の実習指導に役立てている。</p> <p>(看護学科)</p> <p>主たる実習施設である好生館では年度初めに年間の実習概要について、実習担当者に対する説明の機会を設けている。</p> <p>各実習前には臨地実習指導者会議を開催し、実習計画について共通理解を得るようにしている。</p> <p>令和2年度は実習施設と好生館看護学院で10回の会議を行った。</p> <p>また各実習中も毎日指導者と話し合い、受け持ち患者・実習内容の調整を行った。</p> <p>さらに、実習終了後、実習施設と共に評価を行い、次年度の指導に活かしている。</p>	○		
16	<p>教員は実習時のインシデント事例や感染リスク等について把握・分析を行い、学生指導に生かしているか。</p>	<p>(助産学科)</p> <p>令和2年度のインシデントは11件であった。</p> <p>内容は学生の分娩介助評価表の紛失、カルテや体温計を持ち帰るなど、物品や記録物に関するものであった。</p> <p>インシデント発生時は、学生間のグループ討議で原因分析を行った。</p> <p>対策として、学生用キャビネットの設置、記録物の保管方法を工夫した。</p> <p>(看護学科)</p> <p>令和2年度に発生したインシデントは全学年で11件であった。</p> <p>内容は、家族とのコミュニケーション、記録物の一時紛失や置き忘れであった。</p> <p>インシデント事例は当事者と振り返りを行い、学生全員に内容について事例提供し、問題を共有し対策を周知した。</p>	○		

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
17		国試合格 100%を目指し、取り組んでいるか	<p>(助産学科)</p> <p>入学前から国家試験の過去問題を提供し、学生の意識を高めている。</p> <p>入学後はノートで学習状況を把握し、個々の学生に合わせたサポートを行った。</p> <p>また9月～2月に10回の模擬試験を行い、結果について教員と学生で分析し、不得意分野の攻略法を指導している。</p> <p>さらに1月～2月は国家試験対策に力を入れている。</p> <p>結果、過去3年間の合格率は100%である。</p> <p>(看護学科)</p> <p>1年次より国家試験に向けて模擬試験を実施している。</p> <p>1年次は2回/年、2年次は2回/年、3年次は8回/年の試験を行った。</p> <p>試験結果を基に学生にフィードバックを行っている。</p> <p>また、講義時、国家試験設問について説明をし、同様の対応を外部講師にも依頼している。</p> <p>国家試験対策については教員個々の取り組みとなっており、今後学院全体として取り組む必要がある。</p> <p>また、「国試対策が成績下位者中心で学生全体には行われていない」とアンケートで回答する学生もいることから国試対策の進め方を見直す必要がある。</p>		○	
18		質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っているか。	<p>(助産学科)</p> <p>新生児蘇生法Aコースやリフレクソロジスト初級など、助産師に必要な資格を取得させるとともに日本母性衛生学会へ参加し、研究に触れる機会を与えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症禍であっても学内実習をすることなく、すべての学生が10回の分娩介助をできるよう実習調整を行い、卒業時の知識・技術の質の担保に努めている。</p> <p>(看護学科)</p> <p>令和2年度から新たに「キャリア論」を開講し、自らキャリアを積んでいくことの重要性を学ぶ科目とした。</p> <p>臨地実習では新型コロナウイルス感染症禍であったが、実習施設の協力もあり、ほぼ実習は達成できた。</p> <p>また、講義にOSCEを取り入れ、看護実践力の修得に努めている。</p>		○	

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
19		教員に各種研修会への参加、研究調査活動の機会を与えるとともに、教員自身も自己研鑽に努めているか	<p>(助産学科)</p> <p>全国助産師教育協議会主催のファーストステージ研修の受講を予定していたが、新型コロナウイルス感染症流行のため中止となった。</p> <p>代わりに全国助産師教育協議会のオンライン研修を受講するなど、コロナ禍でも積極的に研修を受講し、自己研鑽に努めている。</p> <p>学内教員は3人とも令和2年度に助産評価機構のアドバンス助産師を更新した。</p> <p>(看護学科)</p> <p>新カリキュラムの改正に向けての研修を多く計画していたが、新型コロナ禍の影響で、全て中止となった。</p> <p>代替としてオンラインでの研修を受講し、自己研鑽に努めている。</p>	○		
20		学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。	<p>教員は科目終了時に学生による授業評価、教員の自己評価等を実施している。</p> <p>授業評価は内容の理解、教員の授業姿勢、資料について行い、評価結果を基に授業を継続的に改善していった。</p> <p>リモート授業では、授業ごとに学生の意見を聞き、次の授業展開に反映した。</p> <p>現在の授業評価は、各教員に一任しており、学院全体の授業評価にする必要がある。</p>		○	
21	学生生活 学生支援	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。	<p>(助産学科)</p> <p>入学時オリエンテーションで早目の就職活動を促すとともに、学生全員に個別指導をしている。</p> <p>また、学生一人一人の要望に応じて、履歴書作成、論文や面接の指導を行うなど就職内定までサポートしている。</p> <p>(看護学科)</p> <p>1年次前期に担当教員は一人一人と面接を行い、進路・学生生活などの相談に応じている。</p> <p>その後も毎年度、進路の変更等の確認を行い助言している。</p> <p>就職活動に際しては、履歴書作成・試験対策等の支援を行い、かつ精神的に不安定な時期のサポートにも努めている。</p>	○		

	分野	評価項目	取り組み実績	自己評価		
				出来ている	一部出来ていない	出来ていない
22		学生等の健康管理の充実を図るための体制の充実が図られている。	<p>定期健康診断やワクチン接種など健康管理の体制は整っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関しては、県外への移動制限など、佐賀県医療センター好生館の対策に準じた取り組みを行うとともに、やむを得ず、流行地に移動した場合には、佐賀県医療センター好生館の協力を得て、学生の費用負担なしで検査を行うことにより学生の陰性確認を行っている。</p>	○		
23		学生等に対する心のケアを図るなど、生活支援の充実がなされているか。	<p>学生の日々の健康状態を把握し、必要に応じて個別面接やスクールカウンセリングを活用し、心のケアを図りつつ、生活支援を行っている。</p>	○		
24		経済的に安心して学業に専念できるよう支援の充実がなされているか。	<p>令和2年度から始まった給付型奨学金の適格団体になるための手続きを進め、認定を受けた。</p> <p>令和2年度は19人の学生が給付型奨学金を受給した。</p> <p>さらに、好生館独自の奨学金制度(月額5万円、就職後返還免除有)を設けており、令和2年度は26人が貸与を受けた。</p> <p>好生館が募集する夕方勤務のナースエイド(時給1,250円)を学生に紹介した。</p>	○		
25		交歓会や学院祭、クラブ活動などを通じて学生相互の交流が図られるよう、支援しているか。	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学院祭は感染対策をしながら実施できたものの、交歓会が中止になり、また、3密を避ける必要から、学科や学年を越えた積極的な交流は難しかった。</p>		○	
26		地域住民を対象とした好生館のイベントや地域のボランティアに教員・学生は積極的に参加しているか。	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの募集の中止が相次ぎ、例年よりもボランティア参加の機会が減少した。1年生参加率73.1%。2～3年生参加なし。</p>		○	